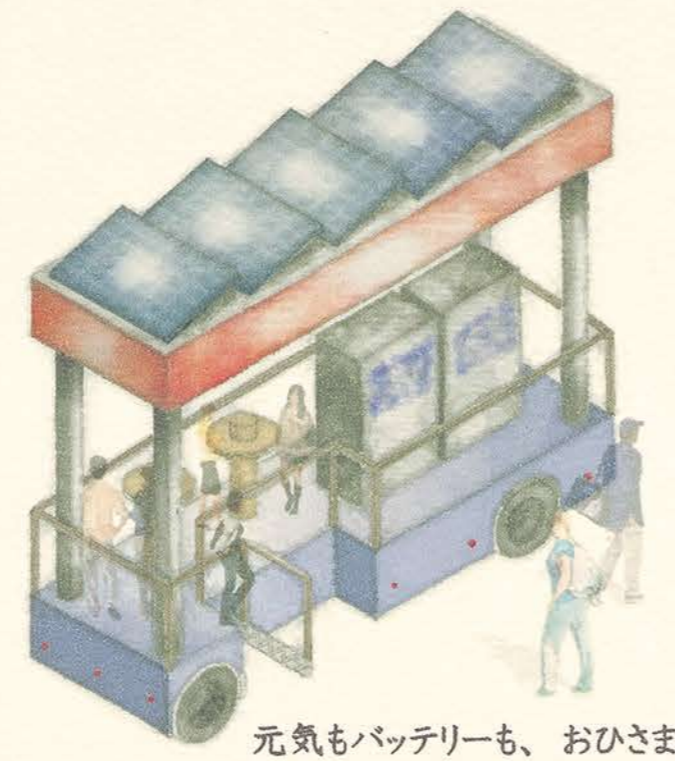


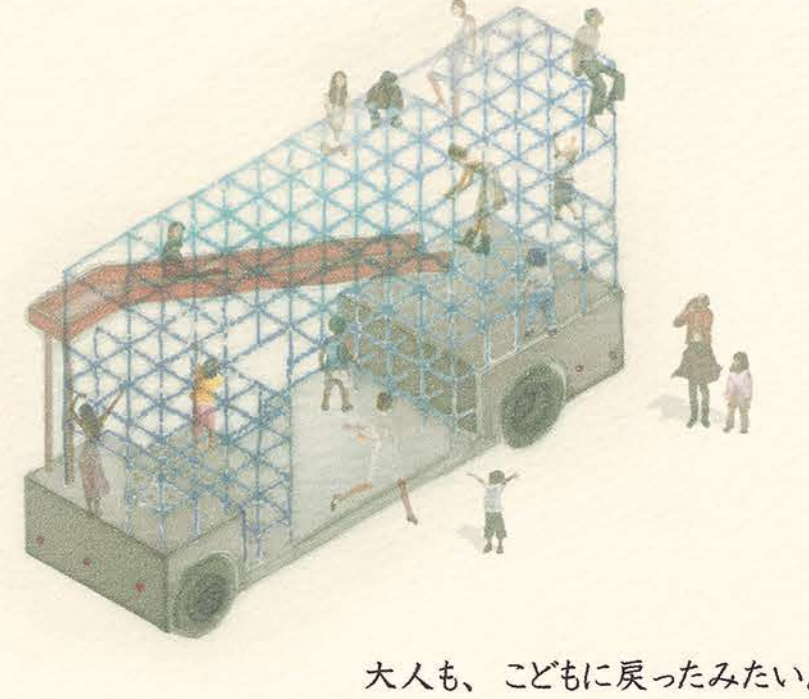
C ミセMA
いつでも、どこでも。もっと、便利に。
ないと思えるもの、ちょっと足りないうもの、買えます。
・コンピュータ搭載数：53,554台(2015.12)
・買付総額：約700万円(H26)



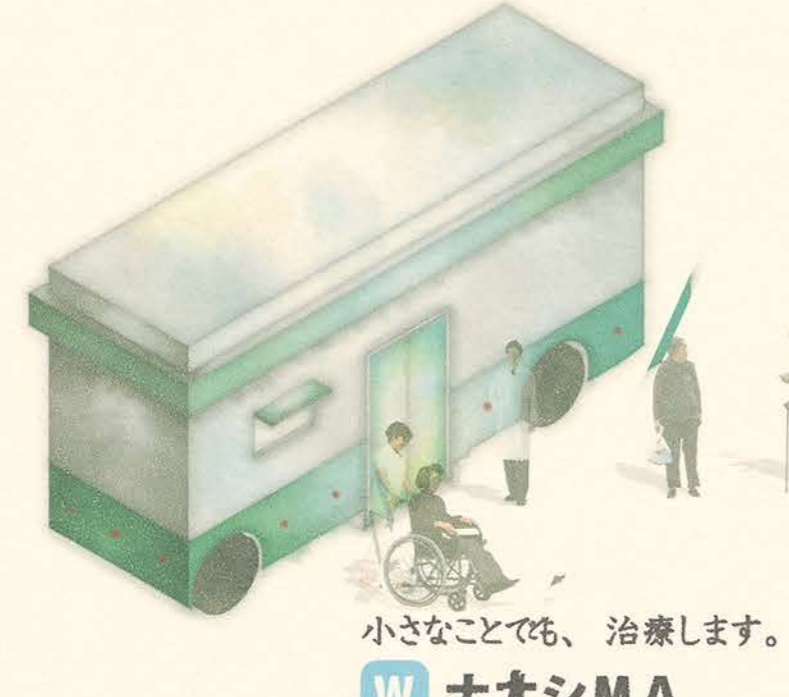
G エコMA
元気もバッテリーも、おひさまで充電。
スマホやタブレットを充電しながら次の目的地へ。
・発電能力に合わせた再生可能エネルギーの割合：5% (2017)
・再生可能エネルギーによる発電容量：3000万 kWh(2013年度)



W イクMA
パパ、ママ、ほくがお迎えにいくよ。
1時間でも、1日でも。お子様をお預かりします。
・保育所定員数：24038名(2015.4)
・日本人の定員の割合：約22.8万8819人(H25.4.1)
・保育所待機児童数：22,741人(H25.4.1)



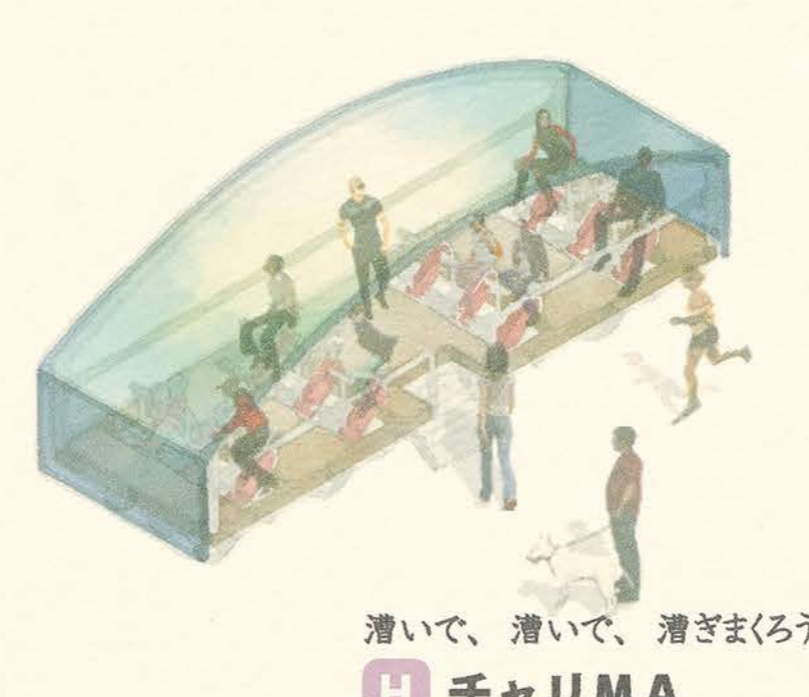
H トレMA
大人も、子どもに戻ったみたい。
運動の基本を身に付けて、身体能力を向上。
・子どもの肥満率：男子22.6%、女子25.4%
・子どもの体力低下：基本的な身体能力が落ちていない子供の急増(2007年度の増加が大幅増(2013年度))



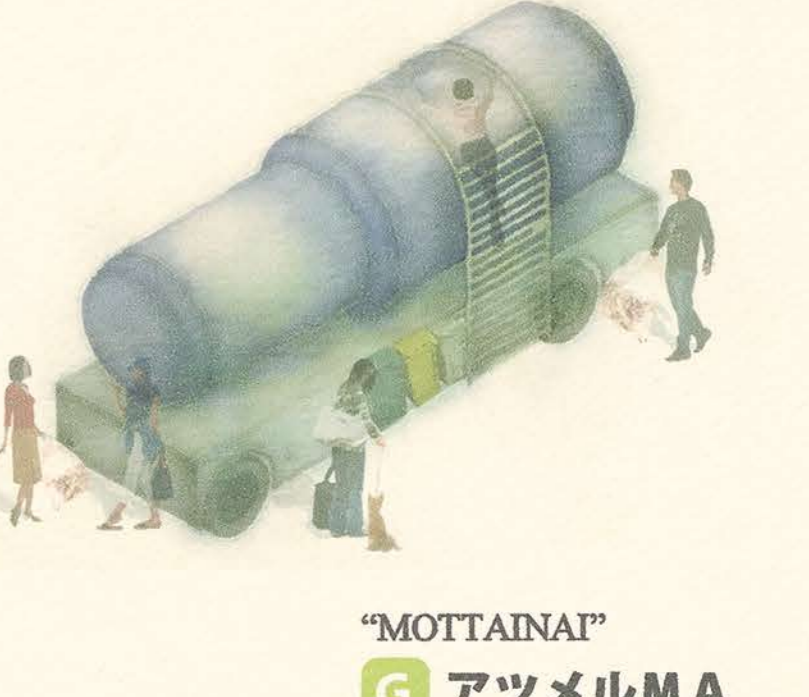
W ナオシMA
小さなことでも、治療します。
保健室以上「救急車未満。健康の不安を取り除きます。
・乗車定員数：67名(H26年度)
・乗車地区数：112万4122人(H26年度)
・乗車地区における1日平均乗車数：126万1181人(H26年度)



C ヤオヤMA
まちのみんなで気軽に農業。
植物工場野菜を育て、新鮮野菜を販売します。
・農業従事人口：335万人(H17.10.1現在)19.0%減少
・農業従事人口に占める65歳以上の割合：57.0%(H17)
・健康維持に必要な野菜の摂取目標量：350g以上(成人1日当たり)



H チャリMA
滑いで、滑いで、滑ぎまろう。
乗客が滑くバイクの推進力でMAを動かします。
・日本人の肥満率：男子26.6%、女子20.3%(H25)
・消費カロリー：男性(体重60kg)：307kcal/30分
・女性(体重52kg)：246kcal/30分



G “MOTTAINAI” アツメルMA
家庭から排出されるゴミを回収して再資源化します。
・一般廃棄物のリサイクル率：20.6%(H26年度)
・一般廃棄物の処理率：2011年(H26年度)



R トドキMA
気持ちを伝える。気持ちは伝わる。
手紙を書いた送ったり、郵便物を集配しながらまちを走ります。
・郵便物取扱数：約220億3562万通・個(H27)
・郵便配達回数：18万2839個(H25)



W トショMA
物語を探しに行こう。
持ち寄った不要本をまちのみんなで回収します。
・古本回収量：2000トン(2015)
・不要本回収回数：6365回(2017年4月-12月)



R ツドイMA
話そう、もっと、まちのこと。
居合わせた人とおしゃべりしながらホットできるまちの居間。
・精神的な苦痛に悩む市民(自治体、町内会等)：296,700(2013)
・自治体への参加回数(市に数回参加)：参加していない：87,314(2013)
・訪問先への来客数(来客)：ほとんどない、来てはる人少ない：58,111(2007)



C ふうMA
きょう、なにを着よう？
着なくなった服を交換し合う、まちのクローゼット。
・1年間に交換される服の枚数：942万枚(H23)
・衣類のリサイクル率：約13.4%(H23)
・衣類のリサイクル率：約11.3%(H23)



W シェルMA
大丈夫だよ、あなたを守るから。
災害時、シェルターになってあなたを守ります。
・東日本大震災による被害(死者)：19,754名(2011.3.11現在)126.8人(H26.8.1)
・関東・東北豪雨による被害(死者)：6名、負傷者：49名(2015)



G ウミMA
お魚がみたいな。
絶滅危惧種の魚を映写し、生物多様性の大切さを伝えます。
・世界に生息している魚の種数：32,400種(2012)
・絶滅危惧種(魚類)：2,222種(2011)



C ランMA
くつが走ります。世界が走ります。
おうちで履き替える靴をまちから世界へ寄付。
・靴を履き替えている人：180万人(2013.12)
・足に合わない靴を履き替えている人：30万人(2013.12)
・ケニア・マラウィ共和国に寄付された運動靴：6535足(2014-2016.3)



C スシMA
きたきた、回転寿司職人。
まちを回転する、回転寿司。
・回転寿司の店舗数：約5777店(2014)(13年間で23.9%増)
・寿司の廃棄率：約1.5%(H26年度)
・寿司の1店舗当たりの廃棄物の排出量：1,451.7kg(2005)



G モリMA
毎日が、冒険だ。
排熱利用により熱帯植物を育て、CO2排出量ゼロへ。
・自動車の燃費率：最大38% (2014.4.10)
・自動車が排出するCO2：1車約2.2トン(2014)
・森林が吸収するCO2：8.8t/ha



W チャノMA
Japan is beautiful.
伝統に触れ、歴史文化の理解を深め、日本への愛着を育みます。
・国宝(建造物)：2,212(2014.10.28現在)
・重要文化財(建造物)：2,456(2014.10.28現在)
・登録有形文化財：10,715(H26.8.1)



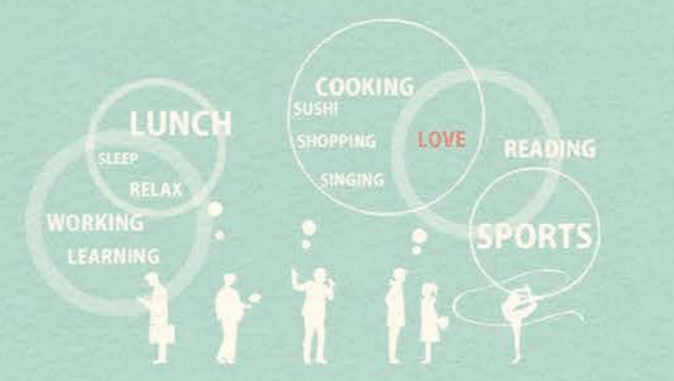
G コオリノMA
ちよと、ひんやりしていく？
気化熱によりエネルギー消費ゼロでまちをクールダウン。
・気化熱効果(約10℃低下)：約1000t(2013)
・約3℃低下(夕方水素・効果)：約22時間まで持続(2007)
・モントリオール協定：HFCサービス用途2030年全廃



W ミライノMA
この一票で、社会は変わる。
忙しい人も、投票所まで行けない人も投票できます。
・国民投票の投票率：約53.1%(2014)
・投票率：約53.1%(H26年度)
・投票率：48.9% (2011-2014)

*上記の統計データは、総務省、厚生労働省、環境省、文部科学省、経済産業省、農林水産省、国土交通省、文化庁、林野庁、消防庁、内閣府、日本放送協会、日経新聞、その他関係機関や企業情報等より引用しました。

00. すべてが動き、錯綜する未来
その日、まちのすべてが動き出します。
今まで地域を巡り、まちを紡いだ媒体としてのコミュニティバスは、主体化し、多様な機能を持つ目的としての移動空間へと変貌します。急いでいる人/余暇を楽しむ人/疲れている人...多様な人々が錯綜する内部では、多様化した機能のもとに、人と人との偶然のコミュニケーションが生まれるでしょう。同時に、自動運転の採用により、運転手としての「ホスト」を失うことで、利用者同士が互いに「ホスト」と「ゲスト」を担い合い、新たな関係を構築していきます。こうしたコミュニケーションの連鎖の中に、人と人との繋がりは生まれ、私たちのこころは健康に保たれることでしょう。この出会いも、そういえば、あの日のバスの中。



01. 動き出す建築、RecoMA

電気運転、優先席のみ、全自動運転、防犯カメラ、オンデマンド交通、GPS、立ち話、超ノスタップ

“おはよう”が行き交うところ。
O ミンナノイMA
・通勤、通学時の公共交通利用：1637万2000人(H12)
・駅前周辺、市街地内、市街地外で通勤、通学する人：約80%(H12)
優先席だけを設けたことで、利用者同士の立ち話が生まれます。

02. 自動運転による新たな運営手法

<利用方法>
①バスロケーションシステムによる位置情報の入手
②オンデマンド交通の発進

<バス運営費>
人件費、燃料費、車両費、減価償却費、運転手賃金、車両維持費、保険料、税金、整備費、広告費、立寄料、清掃費、車両リース料、車両リース料、車両リース料、車両リース料

<企業広告>
広告費 5.6万円(2013年)
リアル広告、CSR、企業広告、マーケティング、企業広告、マーケティング、企業広告、マーケティング

自動運転によるRecoMAは、新しいまちづくりの原初の種となります。自動運転の採用は、人々の関係性を再構築するのみでなく、現状の行政に頼りすぎた運営手法に対し、営費の57%を占める人件費の削減にも繋がります。また、企業資本の投入により、さらなる多様な移動空間の提供へとつながります。そして、利用者はGPSによるロケーションシステムにより、スマホ1つでいつでもどこに出会えるかわかります。扉の向こうには、もうワクワクが来ています。

03. ニーズに呼応した運行計画

時刻表、RecoMAP

ニーズや利用頻度に対応し、種類や走行数の他、オーディナリー RecoMA との割合を変化させていく運行計画を行います。街を巡回する多様な RecoMA は、移動ついでに余暇を楽しんだり、ぐるぐる何周も乗りながら利用できます。また、巡回しながら人々を集め、ある地点でルートから離れ、都市の中で滞留し、借景のもとお茶会が始まることもあるでしょう。また、その可動性を活かし、限界集落やニュータウン、時には被災地へと、まるでサーカスのように旅をし、地域に明かりを灯します。

04. そして街は変わり始める

リサイクルエネルギーとして都市に還元する RecoMA

PPF 6959 W/kg, 水素 2280 W/m³, ブドウ糖 1667 W/m³, バイオガス 160 W/kg, 直接燃焼 1833 W/kg

更新時の廃棄物：薪油、プラスチック、紙くず、汚泥、繊維くず、木くず、生ごみ

コミュニティバスの変革が、街をも変えていきます。住宅や都市建築から機能が RecoMA へと移りゆくことで、たとえば住宅の機能は縮小し、都市から間引くように減築され、ゆとりをもたらしていきます。その際、廃棄物等をリサイクルエネルギーへと変換し、RecoMA の運用に転生させていきます。生活の変容が都市の変容へとつながり、やがては社会の変容へとつながっていく未来。きっかけは、RecoMA から。

あした、まちが、動く。
RecoMA
regional eco-wealthy living architecture